

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年5月13日現在

機関番号：23903

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K20858

研究課題名(和文) 育児環境が児の社会的スキルの発達および学校適応に及ぼす影響 5年間の縦断的調査

研究課題名(英文) The Effect of Child-Rearing on Children's Social Skills Development and School Adaptation: A Five-Year Longitudinal Study

研究代表者

細川 陸也 (Hosokawa, Rikuya)

名古屋市立大学・看護学部・助教

研究者番号：70735464

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：学校不適応の増加の背景として、児の社会的スキルの未発達が指摘されている。本研究の目的は、社会的スキルの発達および学校適応に影響を及ぼす、幼児期から学童期にかけての育児環境の特徴を明らかにすることである。幼児期より追跡調査を実施している3,314名の児を対象に、小学2年生、3年生、4年生の時点で、自記式質問紙調査を実施した。就学前の社会経済状況と就学後の発達との関連を検証したところ、世帯収入・両親の教育歴の低い児ほど社会的スキルが低く、問題行動のリスクが高かった。低い社会経済状況は、育児環境の質の低下を通じて、社会的スキルの正常発達を阻害し、就学後の学校適応に負の影響を及ぼす可能性に示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

幼児期から学童期にかけて、経年的に社会的スキルの発達および学校適応に影響する育児環境の特徴を明確化することで、どの時期に、どの対象に、どのような育児環境が重要かといった、具体的な育児支援の根拠として活用することが期待できる。また、本研究結果を元に、育児支援プログラムを開発する予定であり、社会的スキルに着目した育児支援を通じて、学校不適応の防止に寄与することを目指している。

研究成果の概要(英文)：The underdevelopment of children's social skills has been argued to increase their difficulties in adapting to school. This study aims to clarify the characteristics of the child-rearing environment, from infancy to school-age, as it influences social skills development and school adaptation. A self-administered questionnaire survey was conducted among 3,314 children, for whom follow-up surveys have been run since infancy. The link between the socioeconomic condition prior to starting, and development after starting, school were examined. The lower the income of their household, and the lower the educational levels of their parents, the lower the social skills of children, and higher the risk of demonstrating problem behaviors. The results suggest that unfavorable socioeconomic conditions may hinder the normal development of social skills and have a negative effect on school adaptation, by lowering the quality of the child-rearing environment.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：幼児期 学童期 育児環境 社会的スキル 学校適応 社会適応

1. 研究開始当初の背景

近年の不登校、いじめなどの学校不適応の増加に伴い、児の社会的スキルの発達への関心が高まっている。社会的スキルの発達に影響を及ぼす環境因子としては、日常的な児へのかかわり行動、家庭の社会経済的状況、家庭への社会的サポート、早期教育の機会、保育ケアの質などが挙げられる。社会的スキルの発達はそうした環境因子に働きかけることで介入可能であり、子育て支援プログラムなどにおいて、有効性が実証されている。したがって、発達が十分でない児に対して支援を講じることは、生涯の社会適応に有効である。しかし、国内における知見の蓄積は乏しく、社会的スキルの発達に影響する育児環境の特徴を明らかにすることは重要である。特に、社会的スキルの発達に影響を及ぼす、日常的な児へのかかわり行動、家庭の社会経済的状況、家庭への社会的サポートの特徴は、十分に明らかとなっていない。また、国内における幼児期から学童期にかけての縦断調査は極めて少ないことから、幼児期から学童期にかけての育児環境の特徴が、社会的スキルの発達および学校適応にどのように影響を与えているのかは明らかとなっていない。

これまでの調査では、名古屋市内の130施設の保育所・幼稚園に在籍する3,314名の5歳児とその養育者に、社会的スキルの発達と育児環境に関する縦断調査を実施し、幼児期における社会的スキルの発達に関連する育児環境の特徴を明らかにしており、さらに、今後の小学校入学後の追跡調査によって、そうした育児環境の特徴が、学童期以降の発達および学校適応にどのように影響しているのかを明らかにしたい。本研究の成果により、社会的スキルの発達に影響を及ぼす育児環境の特徴を明確化し、学校不適応の未然防止に向けた育児支援に寄与することを目指している。

2. 研究の目的

本研究の目的は、社会的スキルの発達および学校適応に影響を及ぼす、幼児期から学童期にかけての育児環境の特徴を明らかにすることである。

3. 研究の方法

幼児期(5歳)より追跡調査を実施している3,314名の児とその養育者を対象に、縦断的に計5年間に及ぶ量的調査を実施する。本研究における調査時期は、小学2年生(7歳)、3年生(8歳)、4年生(9歳)の3時点であり、調査方法は、児とその養育者に対し、育児環境、社会的スキルの発達、学校適応に関する自記式質問紙調査を実施した。経年的にそれらの状況を分析することにより、社会的スキルの発達および学校適応に影響を及ぼす育児環境の特徴を明らかにする。

4. 研究成果

本研究は、社会的スキルおよび学校適応に関連する様々な育児環境の特徴を明らかとした。主な成果を以下に示す。

1) 家庭の社会経済状況と児の発達との関連

就学前の社会経済状況と就学後の社会的スキルとの関連を分析したところ、世帯収入では、収入の低い家庭の児ほど社会的スキルが低く、親の教育歴では、父母の教育歴の低い児ほど社会的スキルが低かった(Hosokawa, 2018)。また、就学前の社会経済状況と就学後の問題行動との関連を分析したところ、世帯収入では、収入の低い家庭の児ほど問題行動のリスクが高く、親の教育歴では、父母の教育歴の低い児ほど問題行動のリスクが高かった(Hosokawa, 2018)。さらに、社会経済状況と児の問題行動との関連のプロセスを検証したところ、低い社会経済状況は、夫婦間の葛藤や養育態度などの育児環境の質の低下を通じて、児の社会的スキルの正常発達を阻害し、就学後の学校適応に負の影響を及ぼしていることが明らかとなった(Hosokawa, 2017)。

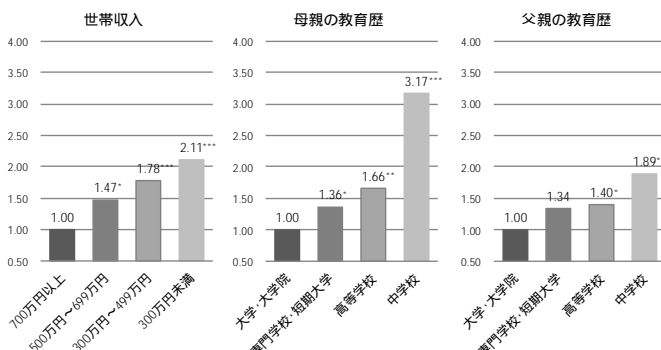


図 家庭の社会経済状況と児の問題行動との関連
Note: ロジスティック回帰分析によりオッズ比を算出 *p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

Hosokawa & Katsura 2018

2) 親の養育態度および両親の関係性と児の発達との関連

親の養育態度と児の社会的スキルとの関連を検証したところ、一貫性のないかかわり、体罰を伴うかかわりが多いほど、社会的スキルが低くなる一方、肯定的かかわり、積極的かかわりが多いほど、社会的スキルが高くなる傾向がみられた(Hosokawa, 2018)。また、両親の関係性お

よび養育態度と社会的スキルの発達との関連を検証したところ、両親間の衝突を伴う関係性は、negative な養育態度を介して、社会的スキルの発達に負の関連を示すとともに、養育態度を介さずして、直接的にも発達に負の関連を示した。一方、両親間の建設的な関係性は、positive な養育態度を介して、発達に正の関連を示すとともに、養育態度を介さずして、直接的にも発達に正の関連を示した。さらに、どのような両親間の関係性が児の発達に影響するかを検証したところ、物理的に攻撃する、話し合いことを拒否する、話し合いの機会を避ける、児を巻き込む機会が多いほど、社会的スキルが低くなる傾向がみられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

1. Hosokawa R, Katsura T: Role of parenting style in children's behavioral problems through the transition from preschool to elementary school according to gender in Japan. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 2019.
2. Hosokawa R, Katsura T: Effect of socioeconomic status on behavioral problems from preschool to early elementary school - A Japanese longitudinal study. *PloS One* 13(5): 1-23, 2018.
3. Hosokawa R, Katsura T: Association between mobile technology use and child adjustment in early elementary school age. *PloS One* 13(7): 1-17, 2018.
4. Hosokawa R, Katsura T: Socioeconomic Status, Emotional/Behavioral Difficulties, and Social Competence among Preschool Children in Japan. *Journal of Child and Family Studies*: 1-14, 2018.
5. Hosokawa R, Katsura T: Marital relationship, parenting practices, and social skills development in preschool children. *Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health* 11: 1-8, 2017.
6. Hosokawa R, Katsura T: A longitudinal study of socioeconomic status, family processes, and child adjustment from preschool until early elementary school: the role of social competence. *Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health* 11: 1-28, 2017.

〔学会発表〕(計9件)

1. 細川陸也, 桂敏樹. 家族の習慣の規則性(Family Routines)と児の社会性の発達との関連. 日本小児保健研究学会. 2018.
2. Rikuya Hosokawa, Toshiki Katsura. Association between mobile technology use and emotional/behavioral adjustment in elementary school - A Japanese longitudinal study. *International Congress of the International Association of Rural Health and Medicine*. 2018.
3. 細川陸也, 桂敏樹. 学童期における両親の関係性と児の問題行動との関連. 日本公衆衛生学会. 2018.
4. 細川陸也, 桂敏樹. 小学生のモバイル機器の習慣的使用と問題行動との関連. 日本小児診療多職種研究会. 2018.
5. 細川陸也, 桂敏樹. 就学児の携帯情報端末の使用と問題行動との関連. 日本小児保健研究学会. 2017. 日本小児保健協会学会 若手奨励賞 受賞
6. 細川陸也, 桂敏樹. 幼児期における社会経済的状況と児の発達との関連. 日本農村医学会. 2017.
7. 細川陸也, 桂敏樹. 幼児期の養育態度が学童期における児の社会適応に及ぼす影響に関する追跡的検討. 日本公衆衛生学会. 2017.
8. Rikuya Hosokawa. Marital relationship, parenting practices, and social skills development. *The 10th Basic and Clinical Translational Research Workshop / Hallym-NCU International Symposium*. 2017.
9. 細川陸也, 桂敏樹. 幼児期の社会的スキルの発達が学童期の社会適応に与える影響に関する縦断的検討. 日本公衆衛生学会. 2016.

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年:
国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。